



光る知性 豊かな心 強い意志

南中生

長井市立長井南中学校

令和6年 1月11日

校長 赤間 幸生

「画竜点睛」

～ 価値ある今年度に そして 良いスタートに繋げる ～



「新春^{ことほぐ}寿ぐ」という言葉がふさわしい令和6年元旦の陽気。しかしその夕方、地震速報と、にわかに信じがたい映像が。石川県能登地方を震源とする最大震度7の巨大地震。多くの家屋が倒壊。北海道から九州広範囲にわたっての津波。激しい火災で街並みは一変。ライフラインが寸断。土砂崩れが多発。電気がない。水が出ない。救援物資が届かない。そして、2日には被災地に物資を届けようとしていた海上保安庁の飛行機と日航機が衝突。目を疑うような光景が飛び込んで来る新年の幕開けでした。



着るもの・食べるもの・住むところが不自由になる辛さ、大変さは想像もつかない過酷な生活でしょう。そこに住む中学生は今どんな思いでいるのでしょうか。特に受験生は不安に不安が重なり、いたたまれないのではないかと思います。家族の安否を心配している中学生もいるかもしれません。なぜこんな目に合わなければならないの・・・と失意のどん底にいる中学生もいるでしょう。一刻も早い日常がもどり、前を向く意欲が高まることを祈ります。

そのような中、南中生全員が事故無く、3学期のスタートを切ることができたことは、大きな喜びです。今年は甲^{きのえたつ}辰。「努力が成果に結びつく年」と言われます。336名全員の、弛まぬ努力の先にある大いなる飛躍を祈念しています。



3学期は「最後の仕上げの時」と同時に「新年度の0学期」とも言われています。48日間という短い学期ですが、来年度につなげるとても大事な毎日になります。



中国のお坊さんが竜の絵を描き、最後の仕上げである、竜の目の瞳をしっかりと描きあげたとたん、突然雷が鳴り響いて、竜が絵から飛び出して、天に昇っていったという故事があります。描き方しだいで、その竜全体が、迫力のある生き生きした竜になったり、だらしない弱々しい竜になったりする、それだけ最後の仕上げは大事で、次の勢いにつながるのだというお話です。この故事からできた言葉が「画竜点睛（がりょうてんせい）」。

3学期は、2学期までに頑張ってきたことを、生き生きしたものに仕上げ、4月からの生活のスタートにつなげてほしいものです。そこで、今までの頑張りを価値あるものにし、来年度につないでいってほしい2つのこととして・・・

1つ目は「勉強」 4月からの新しい学年は、レベルアップした勉強をしていきます。そのためには今の学年の勉強をしっかりと仕上げること。

2つ目は生徒会で大事にしてきた「南中プライド」。来年度はここにカタカナの「ネ」を最後に付け足し、「ネットリテラシー」をプラスしたいと考えています。これからの時代をたくましく、しなやかに生きるための大事なプライドです。

「時計の針が前に進むと『時間』になります。後に進むと『思い出』になります。」とは劇作家の寺山修司氏の言葉です。3月の旅立ちの日に向けて、3年生のために何ができるか、1・2年生のために何が残せるか、幸せな思い出を刻む一人一人の努力を期待しています。

昨年末に外壁工事と天井工事が終了。昨年度か →
ら2年間にわたって、素晴らしい校舎に生まれ変わりました。校舎も新しい年に新しいスタートです。

